



- 受信したB5またはA4サイズのFAXを再度送信する場合の操作  
FAX送信では、320×240ドットまたは320×200ドットのサイズのデータを送  
ることができます。そのため、B5サイズやA4サイズのFAXを受信し、受信デー  
タに加重して返信するには、加重する部分をついたん320×240ドット以下のサ  
イズに切り出して登録する必要があります。
- 1 受信したFAXをフォトメモリーで1件表示します。
  - 2 **[縮小▼]**にタッチして**[通常]**を選び、通常表示にします。
  - 3 スクロールバーを操作して、加重したい部分を画面に表示します。
  - 4 **[修正]**に続いて、確認メッセージが表示されたときには**[はい]**にタッチします。
  - 5 再度スクロールバーを操作して、加重したい部分を画面に表示します。
  - 6 **[範囲]**にタッチし、表示されたメニューパレットを画面の上の方に移動し、切  
り出す部分を範囲指定します(点線で囲みます)。
  - 7 **[複写]**にタッチして複写したのち、**[中止]**にタッチします。
  - 8 **[新規入力]**にタッチして、新規入力画面にし、**[範囲]**、**[貼込]**にタッチします。  
手順7で複写したデータが表示されます。
  - 9 加重したあと、**[登録]**にタッチして登録します。  
このあと、**[通信メール]**、**[FAX送信]**とタッチして、FAX送信を実行します(☎146  
ページ)。

## パソコンとの連携(PCリンク)

パソコンリンクを使うと、パソコン側のパソコンリンクソフトとの間でデータの送  
受信ができます。

同梱のパソコン連携ソフト「ザカルスパワーコネクション」を使うと、パソコンの  
Microsoft Outlook 97のデータとこの製品のスケジュール、アクシヨソリスト、ア  
ドレス帳のデータを同じものにしたたり、この製品のワープロ、表計算とパソコン側  
のMicrosoft Word 95、Word 97やMicrosoft Excel 95、Excel 97との間でデータ  
のやり取りやこの製品のメールとパソコン側のMicrosoft Outlook 97のメールとの  
間でデータのやり取りをすることができます。Microsoft PowerPoint 95、  
PowerPoint 97で作成したデータを、この製品のインターネットブラウザリで受け  
取り、プレゼンテーションなどに活用することもできます。

また、別売のマルチメディア個人情報管理ソフトPowerPIMMを使えば、パソコン  
とデータを連携できます。スケジュール、アクシヨソリスト、アドレス帳などの  
データをパソコンと同じものにしたたり、画像データなどをパソコンとやりとりでき  
ます。

※ Microsoft Windows, PowerPointは米国Microsoft Corporationの米国およびその  
他の国における登録商標です。

※ Outlookは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標で  
す。

※ Microsoft Word, Microsoft ExcelはMicrosoft Corporationの製品です。



## パソコンリンクを使う

パソコンリンクは、パソコンと接続してデータの送受信を行うための機能です。

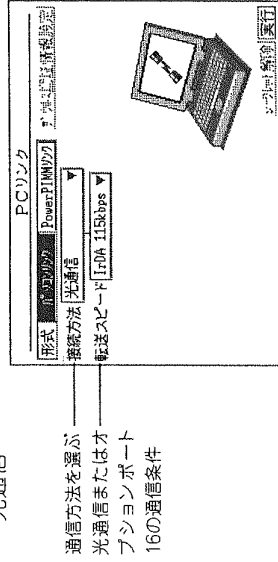
この機能はパソコン側でコントロールされます。

この機能を使うためには、パソコン、パソコン側のパソコンリンクソフト、接続用ケーブル(光通信を使わないとき)などが必要です。この製品のみでは使用できません。

### ●通信方法

次の2つの通信方法があります。

- ・ オプションポート16を使ったケーブル通信
- ・ 光通信



PCリンク(パソコンリンク)画面

- 1 **通信/メール、PCリンク**にタッチします。  
PCリンク画面が表示されます。
- 2 **パソコンリンク**にタッチします。  
PCリンク(パソコンリンク)画面が表示されます。
- 3 **「接続方法」と「転送スピード」**を選び、**「実行」**にタッチします。  
パソコンリンクの実行画面になります。



● パソコンリンクを実行中のままにしておくと、電池が早く消耗します。また、自動節電機能も動きません。使用しないときや、通信が終了したときは、**「中断」**にタッチしてパソコンリンクの実行を終了させてください。

● パソコンリンクを中断するときには、**「中断」**にタッチします。

● シークレット機能が設定されているときは、パソコンリンクはできません。

**「シークレット解除」**にタッチしてシークレット機能を解除してください(☞「機能編」165ページ)。

## PowerPIMMリンクを使う

PowerPIMMリンクは、パソコン側のパソコン連携ソフト「ザウルスパワーコネクション」や、マルチメディア個人情報管理ソフトPowerPIMMと連携してPIMデータのシンクロナイズやデータの送受信を行います。同梱のパソコン連携ソフト「ザウルスパワーコネクション」およびマルチメディア個人情報管理ソフトPowerPIMMの概要については、『機能編』の「周辺機器」の章をご覧ください。

PowerPIMMリンク機能を使うためには、パソコン、パソコン連携ソフト「ザウルスパワーコネクション」またはパソコン用のマルチメディア個人情報管理ソフトPowerPIMM、光通信インタフェースCE-IR5(光通信ポートが内蔵されていないパソコンで光通信をするとき)、接続用ケーブルCE-170TS\*(ケーブル通信するとき)、モジュラーケーブル(電話回線接続するとき)などが必要です。  
※CE-155TS/150TSを使用する場合、オプションポート変換アダプターCE-HA15が必要です。



- PIMとは、Personal Information Managementの略で、スケジュールやアドレス帳などの個人情報を管理することです。
- PowerPIMM (Ver.1.0～1.3)では、シークレット機能が設定されていると、PowerPIMMリンクを使用できません。**「シークレット解除」**にタッチしてシークレット機能を解除してください(☞「機能編」165ページ)。
- パソコン連携ソフト「ザウルスパワーコネクション」を使うときのシークレットの扱い  
この製品にシークレット機能を設定している場合、あらかじめパソコン側の「ザウルスパワーコネクション」にシークレットのパスワードを登録しておく、自動的にパスワードを照合し、シークレットを解除します。
- パソコン側のPowerPIMMのバージョンによっては、連携できる内容が異なります。
- PowerPIMMの取扱説明書にMI-10についての記載されていた場合には、次の点にご注意ください。
  - ・ PowerPIMMからMI-100シリーズを使用する場合、PowerPIMM側の「通信相手」の設定では、「カラーザウルス」を選択してください。
  - ・ PowerPIMMリンクで接続する場合のMI-100シリーズ側での接続準備や接続手順については、165ページの「MI-100シリーズ側の操作」に従ってください。
  - ・ MI-10の全データ保存機能を使ってバックアップとリストアを行う方法について書かれている箇所では、**「ザウルス通信」**、**「全データ保存」**とタッチします**「通信/メール」**、**「全データ保存」**とタッチします」と読み替えてください。



PCリンク

## PowerPIMM リンクを使う



- PowerPIMMでデジタル携帯電話を使った電話回線接続を行うときには、別売のデジタル携帯電話アダプターCE-DA5、CE-DA4、CE-DA3をご使用ください。また、CE-DA4、CE-DA3をご使用の場合、オプションポート変換アダプターCE-HA15が必要です。



- PowerPIMM Ver. 1.0では、電話回線接続は使用できません。
- ザウルスパワーコネクション、ザウルスパワーリンク、PowerPIMMなどのパソコンソフトと通信する場合、MI-100シリーズのメモリーに少なくとも10%以上の空きが必要です。空きメモリーが少なくなると、通信時間が長くなったり、通信できないことがあります。また、通信後も、メモリー使用量を確認し、必要に応じてメモリー整理を行ってください。
- (ご参考) ザウルスパワーコネクションを使って、レポート&自由帳データをIrDA方式による光通信で通信した場合の通信時間の目安  
300件 (1件あたり1KB) で約5分  
1000件 (1件あたり1KB) で約20分
- 表計算やワープロなど、パソコンにデータを送って活用する場合、それらのデータのタイトルにはWindows 95でファイル名として使用を禁止されている記号(、! "> ¥ / : )は使わないでください。

## パソコン側での準備

パソコンとの接続には、次の3つの通信方法を使うことができます。

- ・光通信 (IrDA方式での光通信)
- ・ケーブル通信 (オプションポート16を使った通信)
- ・電話回線通信 (電話回線を使った通信)

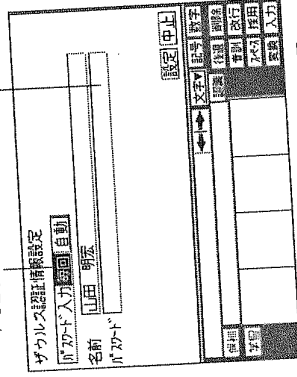


- 1 ケーブル通信を使うときは、この製品とパソコンを通信ケーブルで接続します。光通信を使うとき、IrDA方式の光通信ポートのないパソコンでは光通信インタフェースCE-IR5 (別売) をパソコンに接続します。電話回線通信を使うときは、あらかじめモデムボードやモデムカードなどを取り付け電話回線と接続しておいてください。

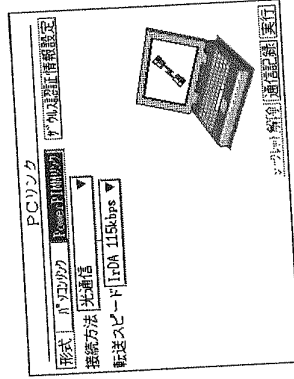
- 2 パソコンでザウルスパワーコネクションやPowerPIMMを起動し、この製品と通信できる状態にします。くわしくは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

## MI-100シリーズ側での操作

パスワード  
「パスワード入力」が「毎回」のときは入力しない  
「自動」のときは入力できる  
「毎回」を選択する



ザウルス認証情報設定画面



PCリンク (PowerPIMMリンク) 画面

- 1 **通信/モデム**、**PCリンク** にタッチします。  
PCリンク画面が表示されます。
- 2 **PowerPIMMリンク** にタッチします。  
PCリンク (PowerPIMMリンク) 画面に切り替わります。  
**ザウルス認証情報設定** にタッチします。  
ザウルス認証情報設定画面が表示されます。
- 3 **ザウルス認証情報設定** にタッチします。  
パスワード入力方法、名前、パスワードを指定します。  
名前は所有者の名前を入力します。  
所有者情報が設定されていると、所有者情報の名前が「名前」欄に表示されます。  
パスワードは、パソコン側のザウルスパワーコネクションやPowerPIMMで設定されているものと同じ文字を入力します。
- 4 **パスワード入力方法**、**名前**、**パスワード**を指定します。  
名前は所有者の名前を入力します。  
所有者情報が設定されていると、所有者情報の名前が「名前」欄に表示されます。  
パスワードは、パソコン側のザウルスパワーコネクションやPowerPIMMで設定されているものと同じ文字を入力します。
- 5 **設定** にタッチします。  
PCリンク (PowerPIMMリンク) 画面に戻ります。
- 6 「接続方法」の右欄 (枠内) にタッチし、接続方法を選びます。
- 7 ケーブル通信では、「転送スピード」の右欄 (枠内) にタッチして転送スピードを選びます。  
電話回線接続では、接続先や使用モデムなどを設定します。
- 8 パソコン側が実行可能な状態になっていることを確認し、**実行** にタッチします。  
「パスワード入力」の設定が「毎回」のときは、パスワードを毎回入力する必要があります。「自動」のときは、手帳4で設定したパスワードが入力されます。パスワードを入力しないと、**実行** が有効になりません。



## 9

パスワードを入力し、**実行**にタッチします（パスワード入力）が「自動」のときは、この手順9はスキップされます）。

パソコンに接続されます。



## ● シンクロナイズにかかる時間について

最初にシンクロナイズを行ったときには、データの件数に応じて時間がかかります。目安として、アドレス帳のデータ1000件をシンクロナイズした場合、約45～55分ほどかかります。2回目以降は、追加・削除のあったデータに対してのみ行われますので、シンクロナイズにかかる時間は少なくなります。

初めてシンクロナイズを行う場合や多くのデータを削除/変更したのちにシンクロナイズする場合など、シンクロナイズに時間がかかる場合は、別売のACアダプターを使ってシンクロナイズを行うことをお勧めします。

## ● シンクロナイズ解除について

PowerPIMMとこの製品との間でシンクロナイズを実行したあとに、この製品のスケジュール、アクショリスト、アドレス帳のデータを削除すると、削除されたデータは内部では隠れたデータとして残っています。そのため、これらの削除データは、「メモリー管理」でデータ件数、メモリー使用量を確認しても、減っていない状態になりますが、再度PowerPIMMとシンクロナイズすることにより、メモリー上から削除されます（「メモリー管理」でのデータ件数とメモリー使用量の表示が、実際のデータと一致します）。

何回かシンクロナイズを実行し、以後シンクロナイズを実行する必要がなくなつた場合は、「シンクロナイズ解除」を実行します。シンクロナイズ解除を行うと、上記の「隠れた削除データ」がメモリー上から削除されます。シンクロナイズ解除を行うにはPCリンク（PowerPIMMリンク）画面で、**機能**に続いて

↓**順送り**にタッチします。

ご注意：「シンクロナイズ解除」を実行したあと、再びPowerPIMMとのシンクロナイズを行うと、この製品側およびPowerPIMM側ともデータが2重に登録されますので、ご注意ください。再びシンクロナイズを行う可能性があるときには、決して「シンクロナイズ解除」を実行しないでください。

● 機能選択キーの**PCリンク**を使う

前ページの操作でザウルスパワーコネクションやPowerPIMMなどと通信を行ったのち、ふたたび同じ接続方法で通信を行う場合は、機能選択キーの**PCリンク**にタッチするだけでパソコンとの接続が可能になります。ただし、前回の接続方法（光通信またはケーブル接続など）と同じ方法で接続するため、前回と接続方法が異なる場合は、**通信メール**、**PCリンク**とタッチして接続方法を確認してから通信を行ってください。また、「パスワード入力」が「毎回」になっている場合、機能選択キーの**PCリンク**にタッチするとパスワード入力画面が表示されます。



## ● パスワードの入力について

パスワードの入力を「自動」に設定すると、自動的にパスワードが入力され便利ですが、この製品を紛失したり他人に使われたとき、通信してデータを勝手に読まれるおそれがありますので、この製品の管理に十分ご注意ください。

● 光通信するときは、上ぶたを裏に回し、光通信部をまっすぐに対向させ、相手機との距離を約30cm以下にご使用ください。

● PCリンク実行中は、他の機能に移ることはできません。

## ● 電話回線接続の接続先を選択するには

PCリンク（PowerPIMMリンク）画面で「接続方法」の**電話回線接続**を選び、「接続先」の右欄（枠内）にタッチします。接続先選択画面で**新規入力**にタッチし、**登録**に接続先登録/修正（電話回線接続）画面で接続先の名前と電話番号を入力し、登録にタッチして登録します。接続先選択画面で接続先に1回または2回タッチすると、PCリンク（PowerPIMMリンク）画面に接続先と電話番号が表示されます。

● 接続先を修正するには  
接続先選択画面で接続先をにタッチして反転させ、**修正**にタッチして修正し登録します。

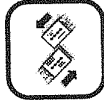
● 接続先を削除するには  
接続先選択画面で削除する接続先にタッチして反転させ、**削除**にタッチします。

● 電話回線接続時の使用モデムの設定などは、「通信機器の接続と設定」(p.8ページ)をご覧ください。



PCリンク





# 名刺交換

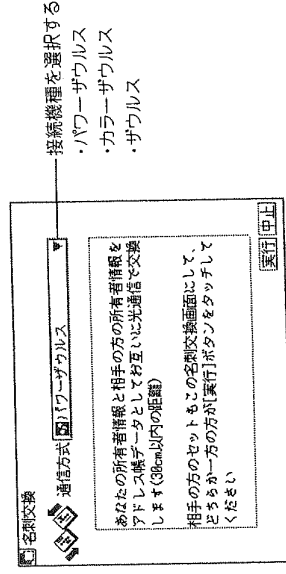
所有者情報を登録して他の人のMI-100シリーズまたはMI-500シリーズ、MI-10、PIシリーズザウルスと名刺交換すると、光通信でお互いの所有者情報を送受信できます。

## 名刺交換する

MI-100シリーズあるいはMI-500シリーズ、MI-10、PIシリーズザウルスとの間で、お互いの所有者情報を光通信で交換できます。これを「名刺交換」と呼びます。相手から受信した所有者情報は、アドレス帳のデータとして登録されます。名刺交換をした相手先は、メール送信やFAX送信の宛先選択リストに表示され、宛先を簡単に指定できます。

名刺交換をするには、あらかじめ互いに所有者情報を登録する必要があります(※『入門編』71ページ)。光通信のしかたは、183ページを参照してください。

### 例 所有者情報を登録した相手を名刺交換を使って宛先として登録するとき



名刺交換画面

- 1 **通信/メール、名刺交換**にタッチします。  
所有者情報画面が表示されます。
- 2 **名刺交換**にタッチします。  
名刺交換画面が表示されます。
- 3 「通信方式」で相手の接続機種を選びます。  
相手がMI-100シリーズ、MI-500シリーズのときは、「パワーザウルス」を選びます。  
また、相手がPIシリーズザウルスのときは、「ザウルス」を選びます(※169ページ)。

5 名刺交換する相手も、手順1~3の操作を行い、名刺交換画面が表示されていることを確かめ、**実行**にタッチします。  
「名刺交換中!」とメッセージが表示され、お互いの所有者情報が送受信されます。名刺交換が終わると、相手の所有者情報を表示した受信データ確認画面が表示されます。

4 名刺交換する相手と通信方式について  
手順3で実際に通信する相手と「通信方式」で選ぶ機種の関係は次のようになります。

通信する相手	通信方式
MI-100シリーズ、MI-500シリーズ	パワーザウルス
MI-10	カラーザウルス
PIシリーズザウルス	ザウルス

- MI-10と名刺交換すると  
MI-10の全所有者情報を受信します。
- PI-8000などのPIシリーズザウルスと名刺交換すると  
ザウルスの全所有者情報を受信します。PI-8000などのPIシリーズザウルスにはないMI-100シリーズの所有者情報項目は、PIシリーズザウルスに転送されません。
- MI-500シリーズと名刺交換すると  
MI-500シリーズの全所有者情報を受信します。また、相手の所有者情報に貼り付けられている音声データも転送されますが、この製品では再生できません。
- 相手の所有者情報はアドレス帳のデータとして登録されます。貼り付けられているフォトメモリーはクイックメモ、音声データはクイックボイスとなります(※『入門編』138ページ)(音声データはこの製品では再生できません)。相手がPI-8000などのザウルスの場合、顔写真や音声データは送信されません。
- 名刺交換の実行を中止するときは、**中断**にタッチします。

# Explore Litigation Insights

Docket Alarm provides insights to develop a more informed litigation strategy and the peace of mind of knowing you're on top of things.

## Real-Time Litigation Alerts



Keep your litigation team up-to-date with **real-time alerts** and advanced team management tools built for the enterprise, all while greatly reducing PACER spend.

Our comprehensive service means we can handle Federal, State, and Administrative courts across the country.

## Advanced Docket Research



With over 230 million records, Docket Alarm's cloud-native docket research platform finds what other services can't. Coverage includes Federal, State, plus PTAB, TTAB, ITC and NLRB decisions, all in one place.

Identify arguments that have been successful in the past with full text, pinpoint searching. Link to case law cited within any court document via Fastcase.

## Analytics At Your Fingertips



Learn what happened the last time a particular judge, opposing counsel or company faced cases similar to yours.

Advanced out-of-the-box PTAB and TTAB analytics are always at your fingertips.

## API

Docket Alarm offers a powerful API (application programming interface) to developers that want to integrate case filings into their apps.

## LAW FIRMS

Build custom dashboards for your attorneys and clients with live data direct from the court.

Automate many repetitive legal tasks like conflict checks, document management, and marketing.

## FINANCIAL INSTITUTIONS

Litigation and bankruptcy checks for companies and debtors.

## E-DISCOVERY AND LEGAL VENDORS

Sync your system to PACER to automate legal marketing.